



色とりどりのいのちが暮らすこの地球で
いのちが喜ぶ暮らしとは？世界とは？
平和を求める旅の中で、出会った人たちの
暮らしや言葉が紡がれて
ドキュメンタリー映画となった

これはいのちの物語。

いのちの 祝福の海

監督 東条雅之

今、母なる地球とすべてのいのちとの繋がりを取り戻すために――

3.11以降の生き方のヒントがここにある



3/30
sun
13:10 開場
13:30 開会

ドキュメンタリー映画「祝福の海」
神戸上映会のお知らせ
神戸市立婦人会館 5階「さくら」

山口県上関町の原発予定地とされた土地の対岸には豊かな自然に恵まれた祝島（いわいしま）があり、島民の大半は長い間反対運動を続けて、建設を止めてきました。

そこに突然降って湧いた中国電力と関西電力が計画する使用済み核燃料「中間貯蔵施設」。関西電力の核ゴミも持ち込む計画で、兵庫県に住む私たちにも決して他人事ではありません。

使用済み核燃料を有効利用するという核燃料サイクルが破綻している今、この国の未来そして地球の未来のエネルギーをどうするのか、一緒に考えてみませんか？

…STORY…

赤ちゃんを70年間取り上げてきた助産師は、生命が地球上に誕生してから連続と受け継がれてきたいのちのバトンの神秘を語る。その言葉は、‘僕’が求める平和な世界への道標となった――

大学時代、世界の貧困問題に関心があった僕。

地球の上でみんなが平和に暮らすにはどうすればいいのか――

世界を旅する中で、自分の暮らしが世界の問題と繋がっていると感じた僕は、足元の暮らしから見直そうと、塩づくりをしながら自給的な暮らしを営む一家を訪ねることにした。

そこには、海や大地に根ざし、あらゆるものを自分たちの手でつくり出す、生き生きとした暮らしがあった。

同時期に出会った、山口県の瀬戸内海に浮かぶ小さな島「祝島」。

豊穡の海の恵みに支えられ、互いに助け合う地域の共同体が残る。

その島の対岸には、30年近く前から原発建設計画が進められていた。

「海をお金では売れない」と島の人たちは言う。

島に通うようになった僕は、彼らが守ろうとしている、どこかなつかしい暮らしに触れていく。

2011年3月11日、大きな試練に見舞われた日本。

祝島から福島へ。平和を求める旅の中で、様々な出会いを経て見えてきた、いのちを生きし合う、未来につづく暮らしや世界とは――

監督 東条雅之

プログラム	映画 上映	13:35~15:20
	休憩	~15:35
	末田一秀さんお話	~15:45
	東条雅之監督お話(質疑応答含む)	~16:40

資料代 1,000円(学生・生活困窮者は無料)

主催 上関に原子力施設はいらない兵庫の会
(連絡先 090-2061-7325)



・JR「神戸」駅下車、北へ徒歩5分
・神戸高速鉄道「高速神戸」駅下車、北へ徒歩2分
・市営地下鉄「大倉山」駅下車、南へ徒歩3分